

都市問題の現状の打開策 (市内河川の再開発構想の二次案)について

都市再開発談話会 正員 赤井一昭

1. はじめに

東京、名古屋、大阪の三大都市をはじめ、デルタに発生した多くの既成都市は、舟運を媒介として発達してきたが、現在これらの都市は、交通、水資源、流通、住宅、公園、地盤沈下、高潮、河川汚濁の公害、治水等の失調した都市問題のために大きな社会問題を生じている。

尚、建設省より出された、国土建設の長期構想によっても、昭和60年の総人口の80%が都市に集中し、さらに三大都市圏においては、産業の発達と人口の集中は、著しく、都市問題は一層激化するものと考えられ、既成市街地の改造に対する要請はますます高まるものと思われる。

これらの都市問題を解決するためには、広域的な立場から、都市改造を進めなければならないが、都市には多大の運河や河川が本来の目的を果せなくなつたまま、地盤沈下、高潮、河川汚濁公害の源として都市のやっかいものとなつていのが実情である。

このやっかいもののやっかいとなつた都市の河川や運河は、開発のいかによって、今後国民経済上からやりとげなければならない。既成市街地の改造を効果的に行うものとして、重要な役割を果たすものと思われる。

2. 都市内河川の現状

本来都市内河川の役割は治水、舟運、用排水、漁業、都市景観、下水ごみ処理等の都市機能の上で重要な役割を果たして来たのであるが、現在では排水路の開削、交通機関の発達、地盤沈下、高潮、河川汚濁によって都市の河川の役割は大きく後退し、むしろ社会問題を提起するに至つたのが実情である。

尚、これらの河川を維持するためには、防潮堤の嵩上げをはじめ、水質の維持には、現在莫大の浄化用金を投入しており、さらに将来都市内河川をきれいな庭の水として維持するためには、浚せり、曝気、高級処理、さらに二次処理等の莫大の維持費の市民負担を予想しなければならない。

3. 市内河川の開発

以上の様に都市の莫大の運河や河川敷を総合的に再び開発し、古い従来の効果や目的と時代に合った現代的な措置を行う必要がある。

例えば、東京の首都高速1号線が高速道路として、舟運を自動車交通におきかえており、又、公園については、高知のはりまや橋で有名な松洲川を都市公園や駐車場として再び市民のために役立ちたいとしている。

この様に東京の都心に40余の莫大の面積を占める隅田川水系の運河や河川をはじめ、大阪の旧淀川水系、名古屋の中川運河水系等の運河や河川敷を総合的に開発を行い、この中に雨水はみろくんのこ公園や街路の汚濁水を排水できるような都市の大幹線下水道

の建設をして、不甲と河川は大々的な干拓を行い、現在運河や河川に放流している莫大な浄化雨水を都市雨水に転用をはかると同時に、治水にさびえて非常洪水のための一大ポイントに都心に確保しようとするものである。

又、この中に噴水、プール等の二大都市公園や緑地帯を建設し、市民の憩いの場とする。尚、都心の交通問題として、完全立体交差の鉄道や自動車の専用道路を需要に応じて経済的に建設し、トラック専用道路としても活用する一方さらに都心に多大の自動車の駐車場を確保するかにわう交通の事故対策としても、交通機関の立体化によって人と車の出合を少なくすることは可能であり大々的な交通事故の減少となる。

又、自動車の走行時間の単縮によってエンジン総回転時間を少なくし、車の利用率を高め、輸送経費を減少することは可能である。さらに市街地に人地域の通過交通のを立体交差の自動車専用道路に転換し、市街地域の効率化を高め、市街地の排気ガス騒音振動の減少をはかむ。又、毎週時代に利用した運河や河川周辺にある多くの倉庫や問屋をさびの都市港新り居の流通機構を再整備しようとするものである。

又、時間距離の短縮によって救急、医療、消防治安等の再編成を行い、これらの老パきを期すると同時に維持経費の節減を行う。

さらに住宅についてもこれらの一部を活用する一方時間距離の短縮による通勤条件の改良によって、大量の住宅地の供給をはかろうとするものである。

尚、これらの結果、河川や運河の干上にもない、必然的に河川汚濁や高潮を解消し、さらに防災スパスとしても活用をはかろうとするものである。

4. あと書き

以上の様に従来行われていた都市再開発事業に比較すると都市内河川の再開発は事業が多目的であり事業費が非常に安く都市全般に波及するところが大きく、又、諸権利の問題が少いため、事業が急速に進ぶものと思われる。

しかし、この事業に当っては技術調査や経済調査を行うと同時に世論にも十分耳を傾け実施に当らなければならない。

又、市内の河川や運河は今後、開発のいかんによっては都市問題の現状の打開策としての可能性を示しているものであり、既成都市の将来像の骨幹兵として大いに貢献するものと思われる。

尚、この資料は都市再開発談話会で昭和59年度より検討した資料を要約したものであり、関係各府県及び各地方公共団体、大学研究所、公園、公社、民間団体の若手有志によって共同提案をするものである。

さらにこの間、工学博士米田正文先生をはじめ多くの諸君の御指導、御鞭撻にあずかりましたことを末筆ながら感謝申し上げます。

参考文献

1. 「獨田川開発構想」 都市再開発談話会 国土開発研究所討論資料 4634 昭和40.10
2. 「交通サービスの時間圏域に関する研究」 米井一昭 西村昂 47年次 関西大学工学部年次学術講演会報告
3. 「摂神地域における水資源開発に関する一構想」 都市再開発談話会水資源部会 水道協会関西支部10回所見発表会